

令和2年度 授業改善推進プラン 美術科 (大森第三中学校)

昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・どの学年も授業に前向きに取り組む生徒が多かった。
- ・日頃から相互鑑賞できるよう作品の校内掲示を増やし、美術に対する興味関心が深めたい。
- ・先輩や友人の作品から刺激を受けて、自分の作品に生かそうとする生徒が多い。

美術の課題と具体的な授業の改善策

観点	現状の分析と課題	具体的な授業改善策
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年とも、授業に熱心に取り組む生徒が多いが、一部意欲的に取り組めない生徒もいる。 ○進度には個人差があるので、作業の遅い生徒は、教員が実演するなど分かりやすく取り組めるよう工夫する。 ○学年が上がるにつれ、確実に発想・技能面共に上達している。上達の実感こそが次への原動力につながっていると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間ごとに、その時間の目標を明確に示すことで集中できる時間をさらに増やす。 ○生徒の作品展示を引き続きこまめに行う。可能な限り、全生徒の作品を掲示する。 ○苦手意識を持つ消極的な生徒への働きかけを意識して増やす。
発想・構想	<ul style="list-style-type: none"> ○美術室にある図鑑や資料から発想を得ようと努力することができる。 ○使用した美術資料を元の場所に戻さない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に資料を探せるような生徒を育てるための資料準備やアドバイスができるよう自己研鑽を積む。 ○資料をジャンル分けし、場所を分かりやすくする。
表現・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○絵を描くことの基本は、まず「見ること」。1年生で、徹底的に見ることを学び、描ける自信を持つ生徒が多い。 ○絵の具が苦手という生徒も、色塗りや絵の具の特性を指導するうちに、技能を身につける生徒が多い。 ○上級生になると、実際の生活で「使いたい」と思えるようなレベルの作品づくりができてくる生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学生の発達段階に応じ、様々な表現の技法を身につけさせる。 ○作品に愛着がもてるよう教員から声かけする。 ○発想を深められるプリントの工夫。
鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ○資料集や先輩、友人の作品を鑑賞することを楽しめる生徒が多い。校内の掲示物も大切にしよう鑑賞している。 ○夏休みの美術館鑑賞に積極的に出かける生徒が多い。また、鑑賞レポートもよく書かれており、3年間で様々な作品に触れることができる。 ○学芸発表会での作品展示をよく鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学芸発表会で、見応えのある内容になるようにし、生徒に達成感・自己肯定感を持たせるようにしたい。 ○生徒が興味を持ち、意欲的に取り組めるような課題を模索する。 ○三中に訪れた人が生徒作品を見て、三中の子ども達の素晴らしさを感じてくれるような環境づくりをする。